

日本古代における挙哀儀礼の展開

日 時：2017年9月27日(水)16:30～18:00

場 所：文学系S棟 128 教室

報告者：小林 理恵 (奈良女子大学博士研究員)

現代の我々は、悲しさや嬉しさという個人的な感情の現れとして「泣く」という行為を捉えることが多い。一方で「泣き女」の存在に示されるように、喪葬に際して声を挙げて意図的に泣く儀礼が、様々な時代・地域において確認されているため、泣く行為には、個人的感情の範囲にとどまらない、文化的な側面も存在しているのである。

日本古代にあつて、喪葬時に泣く儀礼は、古くは『魏志』倭人伝にそれが記録されている他、「挙哀」(こあい、きょあい)として律令や国史といった史料に見える。挙哀は、中国からの儀礼受容とも密接な関わりを持ち、平安期以降は、喪葬を簡略に行うことを志向する薄葬化の流れの中で実施されなくなることが、先行研究で指摘されている。しかし薄葬化が進むとされる平安期にあつても、従来の儀礼はその実施規模を縮小させるなどして存続するものも多い。その中で何故挙哀は姿を消すに至ったのか。本報告では、その背景を検討することで、日本古代における挙哀の性格や、喪葬の場で泣くことの意味付けについて考える。

事前申込は不要です。ご自由にご参加ください。

問合せ先：奈良女子大学古代学学術研究センター
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
奈良女子大学コラボレーションセンター205号室
Phone&Fax. 0742-20-3779